

平成29年度

市政モニターアンケート調査結果
【 長崎市の広報について 】



長 崎 市
広報広聴課

1. 調査の目的

市政の情報を市民へ伝えるために「広報ながさき」を月に1回発行していますが、市民のかたがどれくらい入手され、どれくらい読まれているのか、こういった情報を必要とされているのかなどを把握・分析し、今後の広報活動の参考にすることを目的として調査しました。

2. 調査の概要

調査期間：平成29年 11月 22日 ～ 平成29年 12月 6日
送付数：208人（郵送モニター 167人 インターネットモニター 41人）
回答率：71.2%（148人）
（郵送モニター 136人 インターネットモニター 12人）

3. 調査結果

市の広報媒体には、市民が行政サービスを受けるために必要な情報を提供するという大きな役割があります。併せて、市の施策をしっかりと伝え、長崎市のまちづくりを市民と一緒に考えるきっかけをつくるという大事な役割も担っています。

今回の調査で、「広報ながさき」は8割近いかたの手元に届いているものの、そのうち毎月読んでいるかたや全部に目を通しているかたは、いずれも6割前後であることが分かりました。また、広報紙が届いていないかたのうち自ら入手しているのは4分の1、市の施策や計画に関心があるかたは3割弱という結果が出ました。

市民の皆さんと一緒にまちづくりを進めていくためには、市民の市政への関心を高めることが必須であり、今まで以上に「伝わる広報」を心掛けなければならないと実感しました。加えて、届いた広報紙を読んでいただく、あるいは広報紙を入手しようと思っていただくには、広報紙には「必要な情報がある」「大事な情報がある」ということを知っていただく必要があると考えます。

今後は、広報紙、ホームページ、テレビ・ラジオ、SNSなど、さまざまな媒体を使った積極的な情報発信と併せ、主力となる「広報ながさき」の認知度と閲読率をより向上させる方策について研究していきたいと思えます。

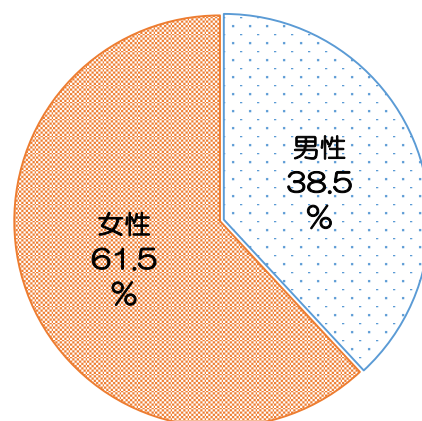
4. 調査結果の見方

調査結果の数字は、百分率で表記しているものがあり、百分率の値は、小数点以下第2位を四捨五入して、小数点第1位まで表記しています。そのため、内訳を合計しても100%に合致しない場合があります。

また、複数回答可とした設問においては、合計が100%を上回る場合があります。

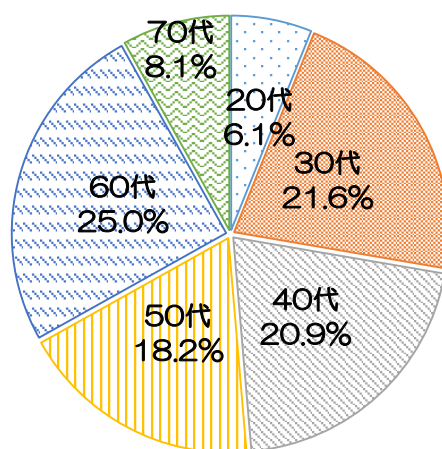
問1 あなたの性別をお答えください。

選択肢	回答者数	割合
男性	57人	38.5%
女性	91人	61.5%
合計	148人	100.0%



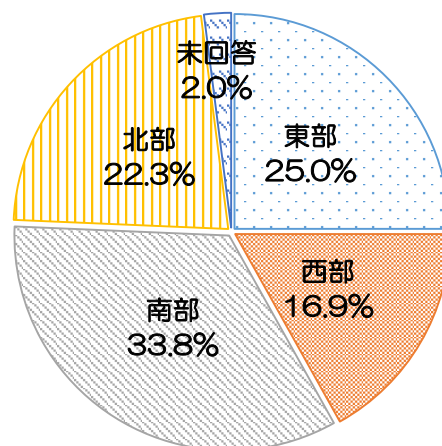
問2 あなたの年齢を選択してください。

選択肢	回答者数	割合
20代	9人	6.1%
30代	32人	21.6%
40代	31人	20.9%
50代	27人	18.2%
60代	37人	25.0%
70代以上	12人	8.1%
合計	148人	100.0%



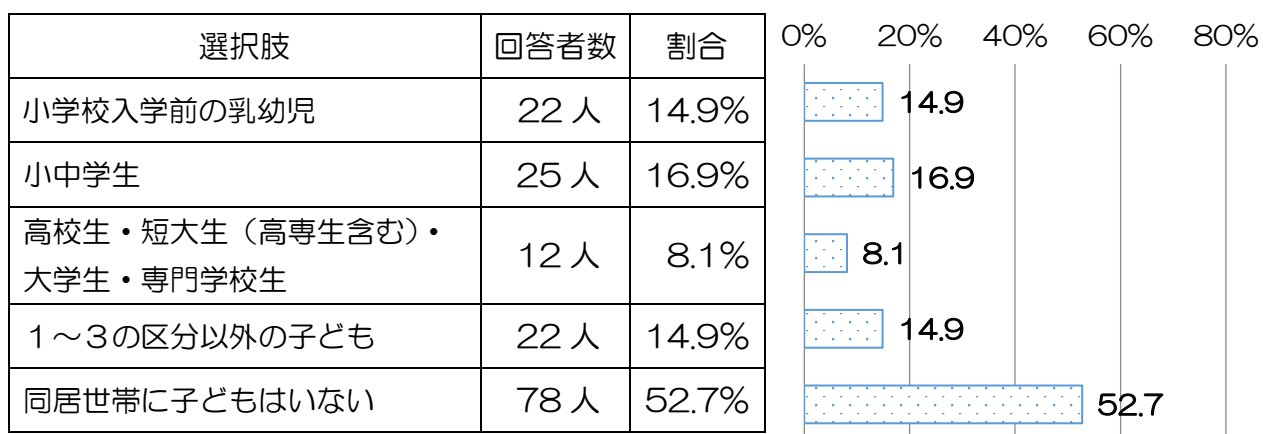
問3 お住まいの町名を教えてください。

選択肢	回答者数	割合
東部	37人	25.0%
西部	25人	16.9%
南部	50人	33.8%
北部	33人	22.3%
未回答	3人	2.0%
合計	148人	100.0%



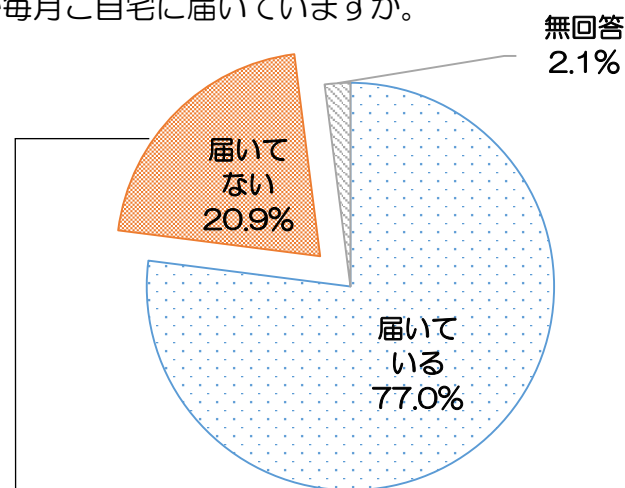
※ご記入いただいた町名をもとに、東西南北に分けて集計しています。

問4 あなたの世帯構成にお子さんはいらっしゃいますか。



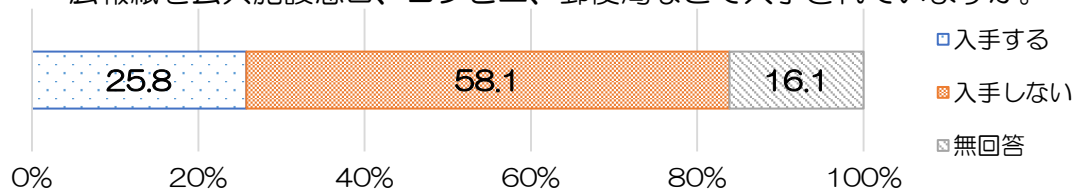
問5 市が発行する広報紙（広報ながさき）が毎月ご自宅に届いていますか。

選択肢	回答者数	割合
届いている	114人	77.0%
届いてない	31人	20.9%
無回答	3人	2.1%
合計	148人	100.0%



問6 「問5」で「届いてない」と回答したかたに質問です。

広報紙を公共施設窓口、コンビニ、郵便局などで入手されていますか。



広報紙が自宅に「届いている」と答えたかたは 77.0 パーセントで、市が自治会と配布グループ（※）を通じて配布している割合とほぼ同じ数値であり、これらが確実に届いていることが確認できました。

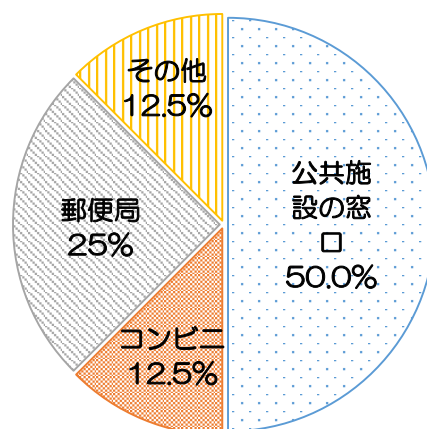
一方、「届いてない」と答えたかたのうち、自ら入手しているかたは 4 分の 1 にとどまり、広報紙を入手しようとする動機づけが必要だと感じました。

※自治会がない場合等に、3 世帯以上で構成するグループに広報紙を配布

問7 「問6」で「入手している」と回答したかたに質問です。

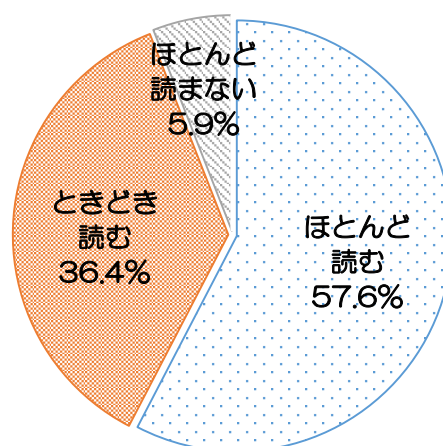
広報紙はどこで入手されていますか。

選択肢	回答者数	割合
公共施設の窓口	4人	50.0%
コンビニ	1人	12.5%
郵便局	2人	25.0%
その他	1人	12.5%
合計	8人	100.0%



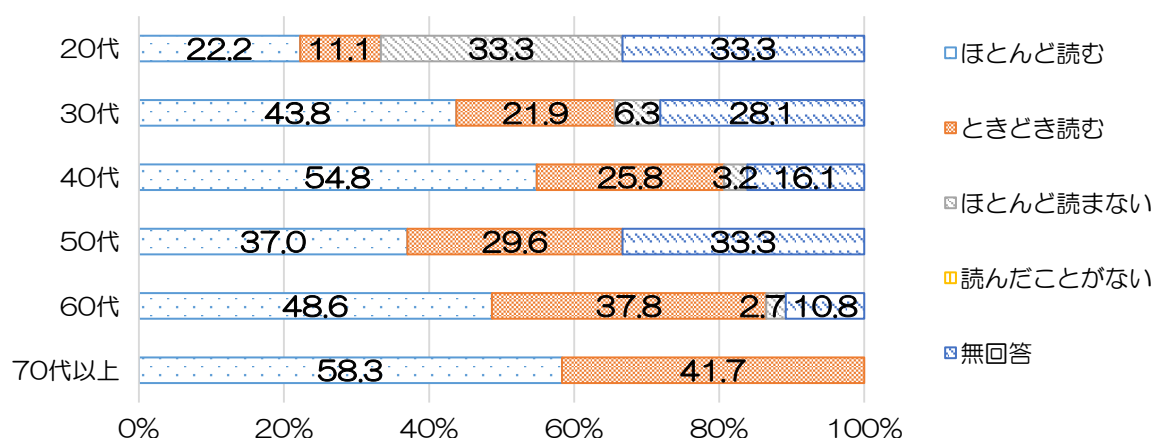
問8 届いた広報紙（入手しているかたを含む）は読まれていますか。

選択肢	回答者数	割合
ほとんど読む	68人	57.6%
ときどき読む	43人	36.4%
ほとんど読まない	7人	5.9%
読んだことがない	0人	0.0%
合計	118人*	100.0%



*広報紙が自宅に届いているかたのうち4名が無回答

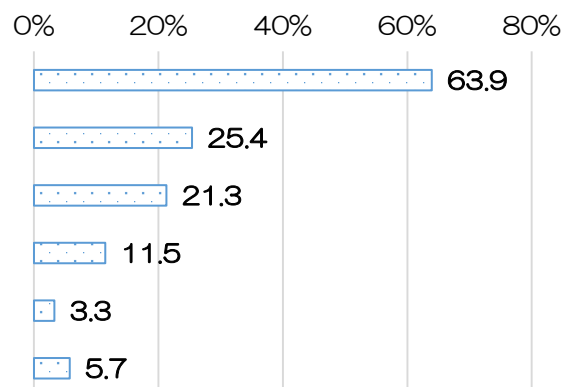
〈年代別割合〉



広報紙が手元に届いているかたのうち、「ほとんど読んでいる」と答えたかたは57.6パーセントでしたが、年代別で見ると、20代で「ほとんど読んでいる」かたは30パーセントを下回っています。若い人たちにも読んでもらえるような紙面づくりと同時に、広報紙にどのような情報が載っているのかを伝える方法を検討する必要を感じました。

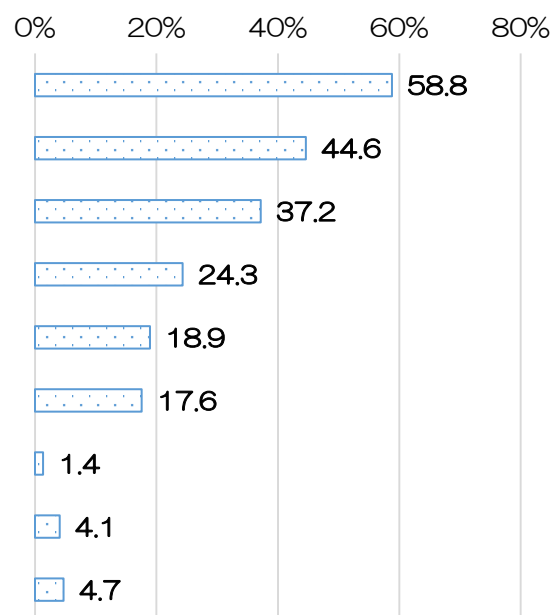
問9 広報紙は主にどのページを読まれますか。(複数回答可)

選択肢	回答者数	手にされるかた(122人)に対する割合
全部読む	78人	63.9%
特集	31人	25.4%
お知らせ	26人	21.3%
健康情報	14人	11.5%
子育て情報	4人	3.3%
その他	7人	5.7%



問10 広報紙以外で市の情報はどこから入手されていますか。(複数回答可)

選択肢	回答者数	割合
テレビやラジオ	87人	58.8%
自治会回覧文書	66人	44.6%
家族、友人等との会話	55人	37.2%
ポスター・パンフレット	36人	24.3%
テレビのデータ放送	28人	18.9%
ホームページ	26人	17.6%
市への問い合わせ	2人	1.4%
その他	6人	4.1%
入手していない	7人	4.7%

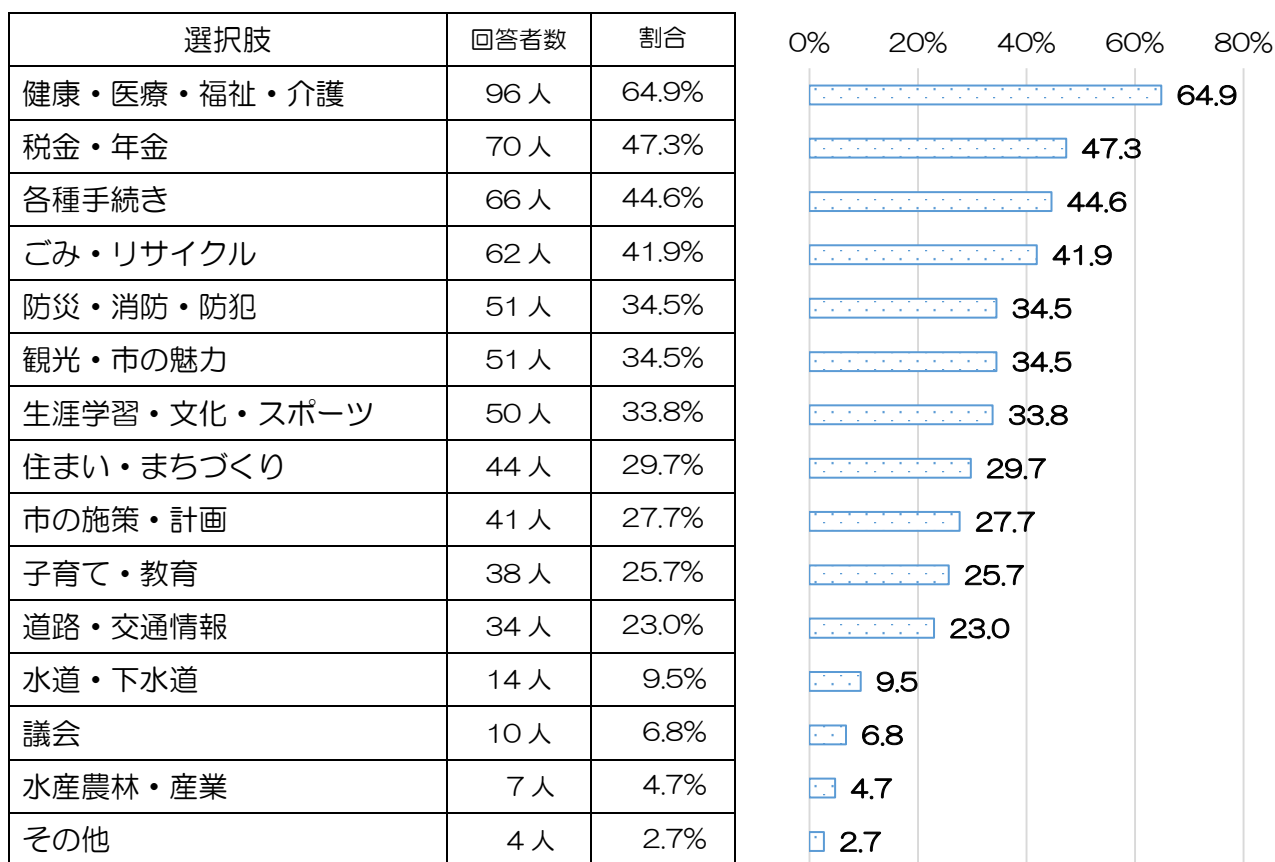


広報紙以外で市の情報を入手しているのは、1位が「テレビやラジオ」、2位が「自治会回覧文書」と市民意識調査(※)と同様の結果でしたが、3位の「家族、友人等との会話」は意外な結果でした。広報紙が家族や友人との会話の中で話題となるよう、まずは「読まれる広報紙」を目指さなければなりません。

また、データ放送がホームページとほぼ同じ回答数だったことから、データ放送の認知度が向上してきたことが分かりました。

※18歳以上の市民2,000人を対象に、生活や市政などに関する意識・意向を毎年調査

問 11 市の情報についてどのような内容の情報を入手したいですか。(複数回答可)

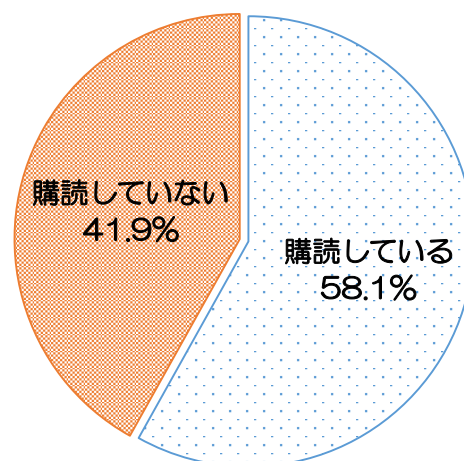


入手したい情報としては、「健康・医療・福祉・介護」「税金・年金」「ごみ・リサイクル」など、生活に密着した情報のニーズが高い一方で、「住まい・まちづくり」「市の施策・計画」への関心はあまり高くありませんでした。

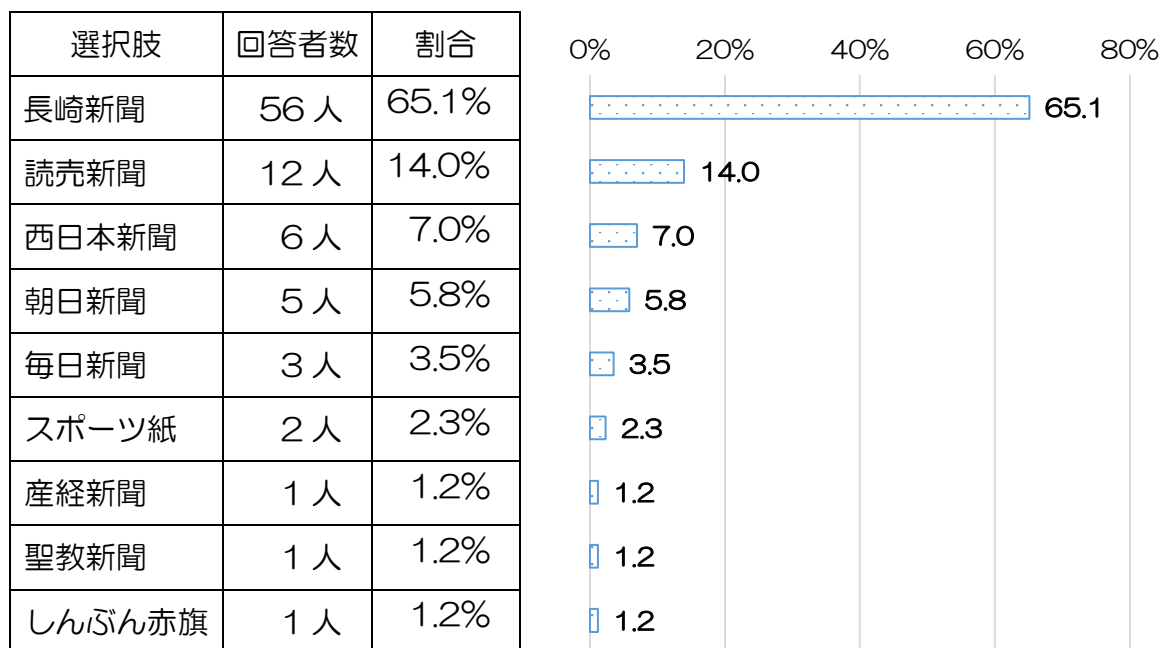
市民の皆さんと一緒に長崎市のまちづくりを進めていくためには、「市の施策・計画」への関心を高める必要があり、広報紙はその役割を担っていると考えています。

問 12 新聞を購読されていますか。

選択肢	回答者数	割合
購読している	86人	58.1%
購読していない	62人	41.9%
合計	148人	100.0%



問 13 「問 12」で「購読している」と回答したかたに質問です。
購読されている新聞名を差し支えなければお書きください。（複数回答可）



広告媒体としての効果を測るため、新聞の購読状況をお尋ねしたところ、購読されているかたは全体の約 6 割で、中でも地元紙の購読者が多いことが分かりました。